

あのふるさとは涙の湖ある

呼んでも 叫んでも 届かない 泣いても もがいても 戻れない ふるさとは
遠く 遠のいて 余りにも 近くて 遠いふるさと
あのふるさとは 美しい海辺 心の底の 涙の湖に ある
佐藤 紫華子作 「原発難民のそれから」よ

4年目を迎えて

テレビでも、新聞でも被災地の様子を伝える特集が組まれている。多くの内容は復興の状況を伝えるものであり、被災地への思いを届けている人々の姿である。それを目の当たりにした多くの人々が「忘れてはいけない」思いを新たにしたであろう。しかし、あの日誰もが「何かできることをしなければ」と思った気持ちは4年の月日の中で薄れ「何かの行動」はそれ以上に少なくなってしまっている。それでも、被災地で暮らす人々や、避難生活を余儀なくされている方々は、復興への不安と希望をかかえ懸命に今を生きている。

実行委員会が考えた今必要なことは

安心して暮らせる場の提供はもちろん、孤立する人々、生きる望みを失ってしまった人々へ思いを、私たちが言葉や行動にして届け続ける事です。

あの日々で増え続ける傷跡

被災した人々は、月日がたてば心の傷が癒されるとは限りません。阪神大震災では、仮設住宅での孤独死は233人に及びました。その教訓を生かして行かなければならぬでしょう。従って、私たちは昨年から仮設住宅に暮らす人々との絆を結ぶようにしています。

復興の現状を知って!

2300、328、60この数字は何でしょう？

最初の数字は被災3県（岩手・宮城・福島）の国への災害復旧事業を申請した学校数です。

328は、岩手県の被災した公立学校数です。そして60は、福島の仮設校舎の学校数です。

79、6、52、7、37、2戸の数字は何でしょう？

災害公営住宅に入居している65歳以上の方の割合です。最初の数字は岩手県の大船渡市、次は復興が早いと言われている宮城県女川町、最後は被災3県全体の平均です。

被災42市町村長が答えた復興の遅れとは何でしょう？

未だ23万人が避難生活をしている事を考えれば、1番は住まいの確保です。2番目は、防潮堤の建設。原発政策については、「将来的に全廃」との回答が半数を超えていました。

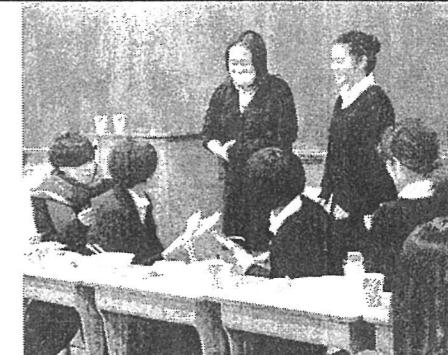
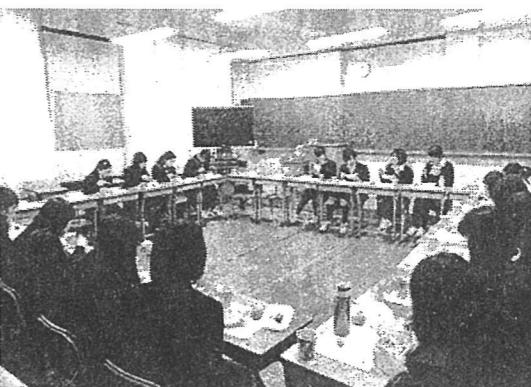
今まで、これからも…

震災から丸4年、私たちはこれからも活動を続けていきます

「3年生を送る会」を開きました

2月26日(木)の昼休み、実行委員会版「3年生を送る会」を開き、これまでの3年生の活躍をねぎらいました。当日は3年生のリクエストに応え、ピザとたこ焼き、みかんをみんなで食べながら、3年生から思いの詰まった後輩へのメッセージが伝えられました。そして、高校2年生を中心に後輩からは今後の活動への意気込みが発表されました。大変頼もしい限りです！

3年生に後輩からメッセージと写真を
プレゼント(右が5代目委員長の津口さん、
左が副委員長の近藤さん) ↓



5代目実行委員長 高校2年生津口さんからの挨拶

みなさんこんにちは。5代目実行委員長になった津口結依です。来月で震災から4年になりますが、まだまだ協力できることは沢山あると思います。小さなことからコツコツと頑張っていきたいと思うので、1年間よろしくお願ひいたします。

(津口さんはこれまで学内外での活動に積極的に参加してきました。その経験を活かして実行委員会を引っ張ってくれることでしょう。)



3.11 4年目の11円募金活動

←本日の11円募金の様子

高3が卒業して初めての11円募金。

高校2年生、中学2年生の実行委員全員が参加していました。頼もしい！